

(事務局記入)

○金森 悟(順天堂大学 医療看護学部)

申斐裕子(財) 明治安田厚生事業団 体力医学研究所)

【背景】まちづくり・健康づくりのために、自治体が住民ボランティアを推進・支援することが多い。地域住民のボランティアへの参加希望は高いものの、実際の参加割合とは大きなギャップが存在する。そのため、ボランティアの参加要因を明らかにして、そこに効果的に働きかけることで参加を促すことが望まれる。しかし、わが国においてボランティアの参加要因が系統的にまとめられた先行研究は見当たらない。

【目的】本研究では、わが国における中高年地域住民のボランティアへの参加規定要因に関する文献レビューを行うことで、ボランティアの参加促進のための知見を得ることを目的とした。

【方法】文献検索には、医学中央雑誌 WEB 版 Ver.4、国立国会図書館 NDL-OPAC、PubMed を用いた。検索キーワードには、「ボランティア (volunteer)」、「参加 (participation)」、「要因 (factor)」を、PubMed での検索の際には「Japanese」を追加して検索を行った。加えてハンドサーチも行った。その中から、特定の疾患や障害を持った集団を対象としたものや、特定の内容 (環境ボランティアなど) のみを扱った文献は除外し、日本人の中高年を対象とした、ボランティアの参加要因を記載しているものを採用し、合計 18 編を本研究の対象とした。

【結果】学歴は 10 編で検討されていた。数千人以上を対象とした 4 編で学歴の高さと参加の関連が認められていた。

友人・仲間・人間関係の量との関連は 65 歳以上を対称に 3 編で検討されていた。3 編全てで友人・仲間や信頼できる人間関係の多さと参加の関連が認められていた。

心理・QOL について検討された文献は 7 編あり、そのうち 6 編で心理的要因と QOL の良好さと参加に関連が認められていた。

ボランティア活動に関する情報の認知や政治に関する情報収集、情報収集のための媒体 (テレビやインターネット) の利用については、検討された 4 編全てにおいて関連がみられた。

年齢は 10 編、収入は 9 編、仕事は 6 編において検討されていたが、はっきりとした傾向は見出せなかった。

なお、本研究の対象文献は全て横断研究であった。

【ラウンドテーブルでの検討課題】

- ① レビュー結果に対する感想
(現場での経験や実感をふまえて)
- ② ボランティアの参加促進の成功例
・失敗例
- ③ ボランティアの参加促進に向けた支援方法

特に、地域保健分野やボランティアと関わる機会のある方のご参加をお願い致します。

(連絡先)

金森 悟

順天堂大学 医療看護学部

〒279-0023 千葉県浦安市高洲 2-5-1

e-mail: skanamo@juntendo.ac.jp